

食品安全委員会 in 熊本県
地域のオピニオンリーダーとの意見交換会
～食品添加物について～

日 時：平成26年10月10日（金） 10：00～12：00
場 所：ホテル熊本テルサ 2階さくら
主 催：食品安全委員会、熊本県
参 加 者：食品安全委員会 山添 康委員 食品安全委員会事務局 姫田 尚事務局長
熊本県健康福祉部健康危機管理課 高本 偉志夫課長補佐
くまもと食の安全安心県民会議会長 地元新聞社1名、消費者団体4団体
流通販売事業者2団体 食品事業者団体1団体 生産事業者2団体 計11名

プログラム：

- ◇話題提供 「食品添加物評価の仕組み」
「熊本県の取り組みについて」
- ◇意見交換

議事概要：

【人工甘味料過剰摂取について】

《質問》

今の子供たちは、小さい頃からダイエット目的もあり、人工甘味料を使った飲料を飲んでいる、また、スナック菓子を日常的に食べている。日頃の活動の中で、親に対して、ジュース類については糖分の取りすぎになるので注意するよう呼びかけているが、人工甘味料については、取り過ぎに関する心配はないのか。また、人工甘味料を取ることで、身体が糖分を摂取したと思いつくことによる悪影響が出る恐れはないのか。

《食品安全委員会回答》

人工甘味料と糖分の摂取については、どちらに振れても極端な場合は問題が生じる。糖分は、肝臓と脳が一番消費する。糖分は肝臓に蓄えられて、必要な時にインスリンやグルカゴンなどのホルモンが働いて脳内の活動が落ちないように糖分を供給している。逆に言えば、脳内に糖分が溜まると、脳が必要ないと判断して糖分の供給をやめてしまう。つまり、脳に糖分が必要ならば供給するし、必要がなくなれば拒絶する。甘味のセンサーは脳にあり、小さい子供は、脳に人工甘味料（甘味）ではなく糖分が必要なので、人工甘味料を取った場合、糖分が不足する場合もあるので望ましくない場合もあるし、逆に糖分を取りすぎれば肥満になる。人工甘味料、糖分をトータルとして考え、でんぷん等も含めて必要な糖分を摂取しているかどうかで判断することとなる。

スナック菓子は、どちらかと言うと全体のカロリー量の問題だと思われる。塩分量も多いものもあるので、栄養的に十分注意する必要があると考える。

《質問》

家業の関係で、子供の頃から甘いものを摂取してきた。戦後、砂糖の十分な供給がなされない環境の中で、ズルチンやサッカリンなどの人工甘味料が出回り、自分たちは多く摂取してきた世代である。そのような昔の人工甘味料を多く摂取してきた世代は、体内に蓄積していると思うが、現在の子供たちが摂取している人工甘味料の成分の違いはどのようなものか。

《食品安全委員会回答》

戦後、問題となっているのは、糖分、脂肪の過剰摂取による2型の糖尿病などの生活習慣病が増加していることである。その意味では、人工甘味料は糖分の摂取を抑える働きがあるのでメリットがある。

サッカリンのようなものは、80年代の初めごろに発がん性が騒がれた。そのことで、人工甘味料全体について、悪いイメージが定着したと思う。試験の結果、発がん性物質については、製造過程で発生する不純物によるものであった。その後、製造方法を変更して製造し、改めて検査した結果、問題ないということで、再度復活した経緯がある。その後、アスパルテーム、ステビアなど、いろいろな甘味料が使われようになってきた。これらの使用にあたっては、かなりの動物実験が行われ、疫学的な調査も実施された。また、甘味が100倍とか1000倍とかあるため実際に使われる量も少ない。そのため、蓄積するということはない。

現在は、昔の人たちに比べ、運動不足によるエネルギー消費が少なく、人工甘味料により糖分の摂取が抑えられても、結果として糖分の過剰摂取となっている状況にある。人工甘味料は、そのことだけに注目されがちだが、今の生活環境の中で、トータルな栄養摂取の状況の中で、人工甘味料を考えていく必要がある。

【現在の流通過程における保存料の状況について】

《質問》

スーパー等で買い物する際、保存料を使用した練り製品と使用していないものが見受けられる。今の流通管理の状況から保存料は必要なくなっているものと考えているが、実際に昔と今では保存料を使う割合が減ってきているのか。

《食品安全委員会回答》

冷蔵庫の普及もあり、製品ごとにばらつきはあるものの減っている。厚生労働省の国民栄養調査においても、緩やかではあるが減ってきている。

製造者側は実際に販売する状況を考えて製造を行っているが、最近のように酸化しない容器などが普及すると保存料の必要性もなくなるので、供給される状態によって減ってくるものと考えている。

【容器から溶出する添加物について】

《質問》

最近、コンビニなどでは容器ごと温めて提供するようになってきているので、容器から添加物等が溶出する心配はないのか。

《食品安全委員会回答》

容器からの溶出に関しては水、アルコール及び疑似溶媒というものを使用し、どれだけのものが製品に付着するのかのデータを取り、その付着したものの生体に与える影響についての試験が行われている。たとえばフタル酸樹脂などが生体に与える影響について、調査の結果を踏まえて科学的に評価することが行われている。10年前から比べ使用限度が減ってきており、技術的に溶出しないような改良も進んでいるし、安全な容器の選択など、見かけ上は変化していないように感じるが、業界も努力しているし、国も規制を変えている。

《熊本県回答》

食品衛生法上では、容器包装や子供が口にすることが多い玩具についても規格基準が定められており、収去検査を行っている。

【健康食品等について】

《質問》

健康食品等を過剰摂取した場合、身体に影響があるのか。

《食品安全委員会回答》

サプリメントには、よくいくら食べても大丈夫と書いてあったりするが、医薬品と同じような成分が含まれている場合、通常の食品から摂取する場合と比べ大量に摂取することとなり、許容量のADI値等を超える可能性があり、危険だろうと思っている。

実際に、10年近く前、東南アジアで普通に野菜として食べられているアマメシバを、ダイエット食品として粉にしたものを飲み、台湾や日本で死亡した方や肺胞が損傷した方が出た事件があった。大豆イソフラボンは、豆腐や納豆で食べた場合は、それほど量は取れないが、豆乳で飲んでしまうとかなりの量を摂取してしまうこととなる。妊婦や子供にはリスクが大きくなるので、フランスでは妊婦や子供への豆乳の使用を禁止している。

そういう意味で、サプリメントという形になるとリスクはるかに大きくなる。さらにサプリメントは、医薬品と違い効果が表れないものが多く、効かないから説明書きにある標準的な量より多く摂取してしまうケースもあり、リスクがさらに上がる恐れがあるので、十分に気を使っておく必要があると考える。食品安全委員会のホームページに内外におけるサプリメントによる有害事例を掲載しているので、参考としていただきたい。

【食品安全委員会のリスク評価について】

《質問》

食品安全委員会で行うリスク評価の順番はどうやって決めているのか。外部からの要請に基づくものか内部で決めているのか。現在、重点的に実施している評価について差し支えなければ、お聞かせ願いたい。

《食品安全委員会回答》

一つは、企業から食品添加物、農薬及び動物用医薬品について厚生労働省や農林水産省に要請があったものについての要請、及び、その他の一般的なものについて、厚生労働省や農林水産省が独自に要請するものについて、厚生労働省や農林水産省のデータに基づき評価を行っている。

また、食品安全委員会の企画調査部会で自ら評価を行うものを決め、独自にデータを集めて長期にわたり実施しているものあり、この前は、ヒ素について行い、今は、アクリルアミドについて実施している。

順番としては、厚生労働省や農林水産省からの要請分については、データがそろったものから、独自評価分については、企画調査部会で決めて実施している。

【既存の添加物等で剤型が変化したものについて】

《質問》

既存の添加物で、ナノシリコンなどの剤型が変化したもの、添加の仕方が変化したものに対する考え方、また、いろいろな食品添加物の食べ合わせやその他の食品との食べ合わせの考え方についての、食品安全委員会の考え方をお聞かせ願いたい。

《食品安全委員会回答》

剤型が変化したものについては、体内に入った時に同じ形であるものについては、同じ扱いをする。たとえば、カルシウム塩の場合、溶解度が違うため、他の塩の場合と比べて、有機酸側の部分に大きな差が生じ、毒性に差が生じることがあるので、体内に取り込まれる量と速度で、取り扱いを考える必要がある。ナノのような物質については、現在のところ、調べられているのは金属類であり、詳しいデータはなく、今後、ナノのようなもの小さな粒径のものが、生体膜の透過に大きな差があるのかを含めて評価する必要があると考える。

食べ合わせの考え方は以前からあっており、90年代から実際に試験が行われてきたが、動物実験では、食べ合わせによる影響が生じる結果は出なかった。医薬品に関しては、例えば量を多くとるグレープフルーツジュースと降圧剤のように実際に影響があるものもあるが、添加物については、摂取量が少ないため影響が出ることはないものと考えられる。

【その他】

《意見》

脂肪肝になると代謝能力が落ちると思われる。また、熊本県は添加物などの代謝を助ける野菜の摂取が不足していると言われている。自分の団体では、バランスの良い食事に関する相談を行っているで、活用していただきたい。

《意見》

保護者の中には、事件が発生すると、極端に反応する者もいるし、栄養が足りないからとサプリを簡単に使用する者もいる。

意見交換会を通して学んだことを、保護者に伝えていきたい。